



研究部情報

平成30年2月15日

第2号

発行責任者 研究部長 岡嶋 治

編集者 副委員長 岩城 之泰

(道へき・複連 研究推進委員会)

第66回 全道へき地複式教育研究大会釧路大会の概要報告

1 研究主題・大会スローガン

研修主題 主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成
 ～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に
 未来に「生きる力」を育む学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

釧路大会スローガン タンチョウはばたく釧路の大地から
 未来を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を

2 大会概要

- (1) 開催期日 平成29年9月21日(木) 22日(金)
- (2) 大会日程 【1日目】 全体会・分散会 「釧路町公民館」
 歓迎交流会 「釧路センチュリーキャッスルホテル」
 【2日目】 公開授業・研究協議 「釧路管内8会場」
- (3) 主催 北海道へき地・複式教育研究連盟
- (4) 主管 釧路へき地複式教育研究連盟
- (5) 後援 全国へき地教育研究連盟 北海道教育委員会 釧路管内町村教育委員会連絡協議会
 釧路町教育委員会 厚岸町教育委員会 浜中町教育委員会
 標茶町教育委員会 弟子屈町教育委員会 鶴居村教育委員会
 白糠町教育委員会 釧路教育研究所 釧路校長会
 釧路小中学校教頭会 北海道教育大学

3 会場校の優れた実践内容 (※研究推進委員による助言報告書より抜粋)

(1) 第1分科会 会場校 釧路町立昆布森小学校

- 北海道教育大学釧路校と連携し、子どもが主体的に取り組み、自信や意欲につながる1単位時間の授業過程が明確に示されている。
- 学習の手引き(ガイド)活用による見通しのある学びを保障する授業が構築されている。
- 共に学び合うことよさが実感できる交流場面が設定されている。



(2) 第2分科会 会場校 厚岸町立太田小学校



- 第0次から始まる単元構成の中で、各指導段階の位置付けを明確にし、ねらいがはっきりとした言語活動が展開されるように工夫を行っていた。
- 見方・考え方・表し方を各学習に位置付けることで、児童の思考の深まりが図られた。
- 学習計画表や作品例の掲示、ワークシートの準備など、学びを高めるための手立てが工夫され、児童の意欲や主体性を引き出すことに効果を上げていた。

(3) 第3分科会 会場校 浜中町立散布小中学校

- 課題の提示や課題解決にICTを活用するなど、課題解決に向けて工夫がなされていた。昨年の公開でも小黒板を使っていたが、使い方に慣れており、日常の指導の成果が表れていた。
- 小学校と中学校が共同で進んで学び合う授業を構築し「コミュニケーション能力の向上」のために、能力表の作成を行い、発表の約束についても中学校版を作成するなど、研究を計画的に取り組んでいる。



(4) 第4分科会 会場校 標茶町立沼幌小学校



- 児童の実態を把握することで、個に応じた様々な手立てを事前に準備することができている。
- 教職員全体で学習規律（沼幌スタンダード）の取組の共通理解を図り、実践している。
- ノート指導・家庭学習・宿題・読書タイム等の日常実践が全校で共通理解のうえ一貫した指導として行われている。

(5) 第5分科会 会場校 標茶町立塘路小中学校

- ゴールをイメージした課題設定に力を置いているので、児童は学習の見通しがわかり、意欲的な活動が持続する。
- 学習のスタイル確立のために、学年ごとに「学習の進め方」のプリントが開発され、自学が進められていた。
- どの先生も教材の準備が周到になされ、児童の視覚記憶に残るものであった。また、準備された教材を用いての算数的な操作も行われていた。



(6) 第6分科会 会場校 弟子屈町立奥春別小学校



- 「自己評価シート」「見取り表」「子どもとの対話」「子どもの姿の観察」などによって集合学習を検証し、効果的な在り方を探っている。
- 課題となった事項に関しては、研究部を中心に「工夫例」や「役割例」を提示し、課題解決に当たっている。
- 授業効果を上げるために分習と全習を指導計画に位置付け、系統的な計画が組まれている。

(7) 第7分科会 会場校 鶴居村立下幌呂小学校

- 学びの連続性を意識した「ふり返り場面の工夫」や学び合いの充実を目指した「交流の手立ての工夫」など、前年度の反省を生かし、視点を明確にした実践が充実していた。
- 研究内容と授業の関わり、授業で検証したい内容が大変わかりやすく整理されており、しっかりとした視点をもって授業参観に臨むことで研究協議が充実していた。



(8) 第8分科会 会場校 白糠町立茶路小中学校



- かかわりあいながら、主体的・創造的な学びあいを進め「確かな学力」が確実に育まれている。
- 小中併置校において、研修内容の共有化が図られ、確実に実践が積み上げられ、いろいろな人とかかわりあいながら子ども達が着実に成長しており、確かな成果を上げている。
- 「算数科におけるつきたい力の系統表」「交流を支える言語スキルの系統表」「説明の際使いたい言葉の表」を作成し、つきたい力を明確にした授業づくりが成果をあげている。

第67回 全道へき地複式教育研究大会後志プレ大会の概要報告

1 研究主題・大会スローガン

研修主題 主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成
～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に
未来に「生きる力」を育む学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～
後志大会スローガン 自然豊かな後志から 夢・希望に挑戦する子らへ
豊かな心と学び続ける力を！

2 大会の概要

- (1) 開催期日 平成 29 年 9 月 29 日 (金)
- (2) 大会日程 公開授業, 研究協議など
- (3) 主催 北海道へき地・複式教育研究連盟
- (4) 主管 後志へき地・複式教育研究連盟
- (5) 後援 北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会
島牧村教育委員会 寿都町教育委員会 黒松内町教育委員会 蘭越町教育委員会
ニセコ町教育委員会 真狩村教育委員会 留寿都村教育委員会 喜茂別町教育委員会
京極町教育委員会 倶知安町教育委員会 共和町教育委員会 泊村教育委員会
神恵内村教育委員会 積丹町教育委員会 古平町教育委員会 赤井川村教育委員会
仁木町教育委員会 余市町教育委員会 後志教育研修センター
後志小中学校長会 後志管内公立学校教頭会 後志PTA連合会

3 会場校の優れた実践内容 (※研究推進委員による助言報告書より抜粋)

(1) 第1分科会 会場校 寿都町立潮路小学校

- 学習規律(おしよろスタイル)が定着し、学習リーダーを中心とした学習の進め方をホワイトボードに掲示するなど、間接指導が工夫されていることで、自分たちで進める学習形態が定着しつつある。
- 発達段階に応じた交流の形態をしっかりとおさえ、一人一人の学びを教師が把握する手立てを確立することで、学びの充実が図られている。



(2) 第2分科会 会場校 蘭越町立昆布小学校

- 地域の人々、文化や農業、歴史、食とのつながり、地域の教育課題を受け止めた学校づくりに取り組んでいる。
- 子どもが学ぶ姿を教師がファシリテーターとして支援するという構図ができつつある。
- 子どもの学ぶ力を培うことを主眼に置いた同時間接指導の充実を図るとともに、同時導入・同時終末を取り入れた「複式同時展開過程」を進めている。



(3) 第3分科会 会場校 ニセコ町立近藤小学校

- 近藤スタンダードによる明確な教師の指導と確かな子どもの変容が見られたことから次の4点が成果として考えられる。
 - ・学習規律の徹底による学びの自覚化と進級時の指導時間の削減
 - ・四段階の学習過程の構築による学びの見通しと学習のねらいの明確化
 - ・「すきま学習」の工夫による学年差・個人差の対応と自主的な学力の確保
 - ・構造的な板書の工夫による学びの軌跡を明らかにするノート指導



(4) 第4分科会 会場校 真狩村立御保内小学校



- 「学習ガイド」により教師だけでなく児童も単元全体の見通しや学習内容等を理解しており、どの学年にも児童が主体的に学ぶ姿となって表れていた。
- 教職員全体で「御保内スタンダード」の取組の共通理解と焦点化を図り、実践している。
- 相手意識、目的意識、必要感、振り返り意識の言語意識を高める指導が行われている。

(5) 第5分科会 会場校 喜茂別町立鈴川小学校

- 単元計画の中に問題と課題、まとめを位置付け、単元を通した指導と評価の計画が整っている。
- 学習規律や授業スタイルが確立され、児童が見通しを持って自主的・主体的に授業を進められている。
- 研究内容を授業づくりに焦点化し、具体的な内容項目で研究と実践、検証を行っている。
- 校内研究で確認した内容を全学級が共有し、日常実践に活かせる形にまとめられている。



(6) 第6分科会 会場校 俱知安町立西小学校樺山分校



- 個別の算数カルテを作成し、単元に向かうまでの手立てや単元の中での手立てを明らかにして、指導が進められている。
- 授業の流れ・学習規律・交流場面の設定・ノート作りについて研究成果をまとめ、樺山スタンダードとして教員の共通理解を図りながら日々の授業実践につなげている。

(7) 第7分科会 会場校 神恵内村立神恵内小学校

- 公開授業は両授業とも45分の中で勝負し、授業展開が素晴らしかった。
- 下学年に配慮した授業になっていた。小わたりを積極的に行い、間接指導時に下学年の声を拾うなど、学級全体が見える授業を行っていた。
- 研究のメインである「自力解決、交流」の場面については間接指導の大事な部分だが、子ども達が学習リーダーとしての素晴らしい力を身に付け授業を進めていた。



(8) 第8分科会 会場校 赤井川村立都小学校



- 線分図や数直線など、授業におけるツールの効果的な使い方について研究がなされ、児童の実態に応じた実践が進んでいた。
- 低・中・高における学習リーダーの役割や育て方の指導方法について、学校全体で共通理解が図られ、間接指導や同時間接指導が実践されていた。
- 「ふりかえり」をしっかりと行うための視点が整理され、習熟の時間を大切にしたい取組がなされていた。

第 67 回全道へき地複式教育研究大会後志大会 平成 30 年 9 月 20 日 (木) ~21 日 (金)
第 68 回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会 平成 30 年 9 月 28 日 (金)
第 67 回全国へき地教育研究大会京都大会 平成 30 年 10 月 11 日 (木) ~12 日 (金)